

## 平成29年5月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,423	8,790	4,456	4,334	42	45
2 千 石	3,982	6,842	3,440	3,402	33	51
3 内 山	5,385	7,577	4,026	3,551	60	56
4 大 和	3,413	6,738	3,335	3,403	112	184
5 上 野	7,229	15,318	7,637	7,681	119	182
6 高 見	7,220	13,413	6,444	6,969	69	79
7 春 岡	6,755	10,849	5,735	5,114	31	41
8 田 代	11,435	21,895	10,578	11,317	65	130
9 東 山	10,241	19,324	9,533	9,791	47	72
10 見 付	4,400	8,315	4,202	4,113	55	60
11 星ヶ丘	3,490	6,864	3,122	3,742	20	37
12 自由ヶ丘	3,572	7,354	3,343	4,011	4	△ 1
13 富士見台	6,444	15,490	7,157	8,333	40	53
14 宮 根	3,827	8,411	4,025	4,386	△ 4	△ 9
15 千代田橋	3,587	8,531	3,992	4,539	△ 9	△ 24
千 種 区 計	86,403	165,711	81,025	84,686	684	956
H28.5.1	85,498	164,933	80,616	84,317	627	881
対 前 年 比	905	778	409	369	57	75
名 古 屋 市	1,083,337	2,309,753	1,140,750	1,169,003	5,408	6,683
愛 知 県 ( H29.4.1 )	3,125,753	7,505,526	3,753,685	3,751,841	9,934	△ 4,183

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	95	90	5	2,260	1,309	951

【参考】	国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
	昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
	昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
	平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
	平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

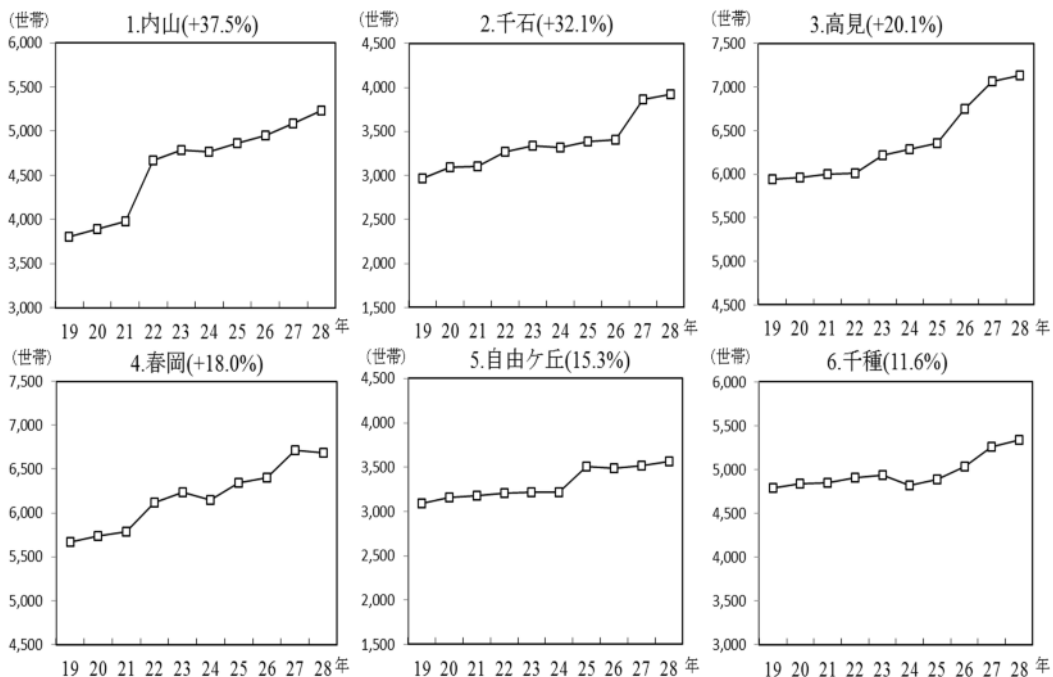
注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の世帯数と人口増減の概況

平成 29 年 5 月 1 日現在の千種区の世帯数は前月比 684 世帯増の 86,403 世帯となっており、人口は前月比 956 人増の 165,711 人となっています。今回は千種区の世帯数と人口増減の内訳を学区単位で見していきます。

平成 28 年 10 月現在の千種区の学区別世帯数は、多い方から田代学区 (11,402 世帯)、東山学区 (10,212 世帯)、上野学区 (7,265 世帯) となっています。世帯増加率 (対平成 19 年 10

図1: 千種区の学区別世帯増加率上位6学区 (対平成19年比) 各年10月1日現在

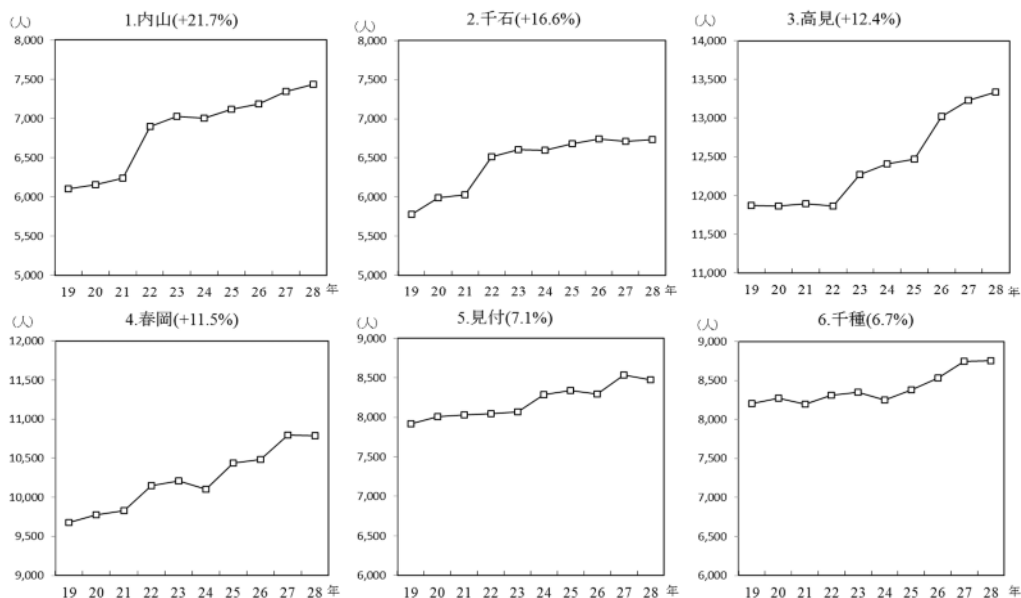


月比) を見てみると、千種区全体では 11.6% で、名古屋市全体 (8.9%) を上回っています。

千種区の学区別世帯増加率を大きい順に並べると、内山、千石、高見、春岡、自由ヶ丘、千種学区の順になります (図 1)。

平成 28 年 10 月現在の千種区の学区別人口数は、多い方から田代学区 (21,757 人)、東山学区 (19,293 人)、富士見台学区 (15,465 人) となっています。人口増加率 (対平成 19 年 10

図2: 千種区の学区別人口増加率上位6学区 (対平成19年比) 各年10月1日現在



月比) を見てみると、千種区全体では 5.6% で、名古屋市全体 (3.1%) を上回っています。

千種区の学区別人口増加率を大きい順に並べると、内山、千石、高見、春岡、見付、千種学区の順になります (図 2)。